

ACCESS



小松空港
高速バス
(所要約1時間)

JR金沢駅
北鉄バス
金沢駅東口◎乗場
93 94 97
「金沢大学(角間)」行
(所要約34~44分)

「金沢大学自然研前」停留所

●金沢大学角間キャンパス



金沢大学学術メディア創成センター
Emerging Media Initiative, Kanazawa University

〒920-1192 石川県金沢市角間町
e-Mail: emi-jimu@ml.kanazawa-u.ac.jp
URL: <https://www.emi.kanazawa-u.ac.jp>

Carbon Offset Print



287 e-CO₂/copy ▶0
この印刷物は1冊あたり
287gのカーボンオフセット
に貢献しています。

金沢大学学術メディア創成センター

COM.CLUB

PUBLIC INFORMATION

広報

Vol.38

No.1

2024年

CONTENTS

- 1… 教育DX推進の取り組み
- 2… 学術メディア創成センターにおけるISMSの運用について
- 3… 情報推進課の担当業務について

教育DX推進の取り組み

2021年4月のセンター改組後の主要ミッションの一つとして進めてきました教育DX推進活動は、センター内の部門を超えて組織しました教育DX推進タスクフォースが中核となり、今年度も活動を行っています。VRコンテンツ、MRコンテンツなどxRコンテンツの開発と授業での活用については、昨年度から教室で学生にVRゴーグルを装着させてコンテンツを活用する授業、VRコンテンツ自体を作成する複数の演習授業、今年度後期から開発したコンテンツを活用

教育DX推進タスクフォース

いただく授業など、共通教育、専門教育に少しずつ広がりつつあります。図1は今年度後期の授業での活用を検討している生体高分子の内部を観察させるための教材です。開発した教材コンテンツの一部をご紹介します。さらに教材としての活用を学内に浸透させるために、9月26日に学内教員向けの「DX教材セミナー」を開催しました。学内の多くの教員からxRコンテンツ教材の有効な活用についてアイデアをいただき、教材の開発と学内浸透をさらに進めていきます。

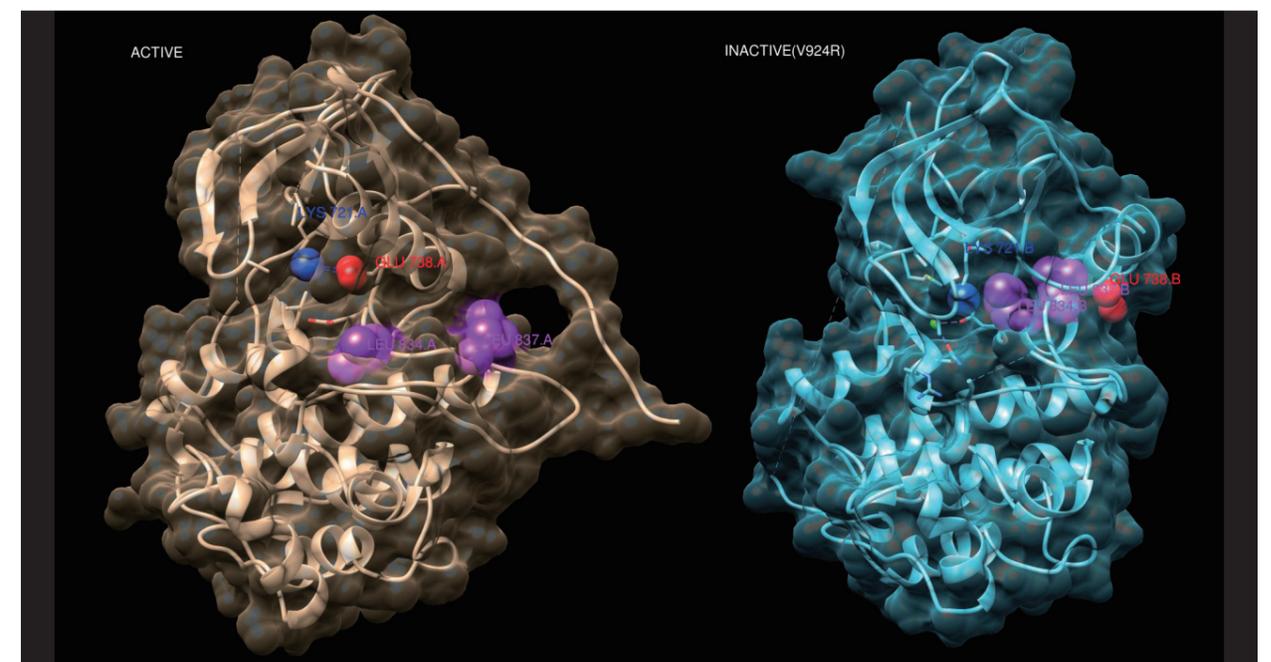


図1. タンパク質内部観察のためのVRコンテンツ

xRコンテンツの開発が進み、学内でも少しずつ認知され、研究や業務でのコンテンツの利活用についてもご提案をいただいております。昨年度から当タスクフォースと株式会社システムサポートとの共同研究としてMRコンテンツの試作を行い、8月30日に行われたナノ生命科学研究所の夏の学校で参加者に体験していただきました。図2がそのMRコンテンツで、原子間力顕微鏡の装置を忠実に再現し、MRデバイスを通してバーチャルな操作に基づく顕微鏡像（左端）の調整が可能です。また、未来知実証センターとともに、本学の研究成果をメタバース空間で学外者に知っていただくための研究ショーケースの開発を進めています。さらに附属病院の研究グループとMRコンテンツの医学での応用について協議を始めています。xRコンテンツの活用環境の一つとして設置しましたVFXシステムを搭載したxRスタジオも順調に稼働しており、VRコンテンツ

作成演習授業の中間、最終発表会、キャンパスビジットでの学類紹介のリアルタイム配信、学長、副学長の海外に向けたビデオメッセージの収録等、授業、業務で役割を担いつつあります。xRスタジオは用いませんが、10月28日に予定されているホームカミング日向けに旧城内キャンパスのVRでの復元プロジェクトを、当タスクフォースが持つモデリング技術、Unityプログラミング、システム開発のスキルを集結させて現在進めています。

今後も学内周知を強化するとともに、メタバースシステムおよびxRコンテンツ開発を進める予定です。（文責：西山宣昭）

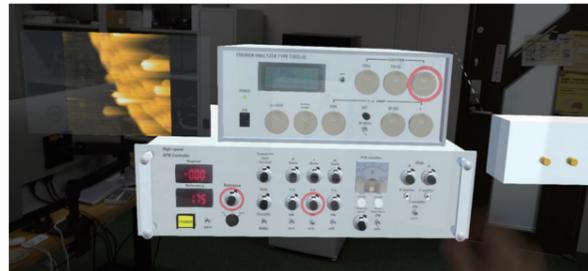


図2. 原子間力顕微鏡操作のためのMRコンテンツ

学術メディア創成センターにおけるISMSの運用について 情報セキュリティ委員会

ISMSは、Information Security Management Systemの略で、日本語訳では「情報セキュリティマネジメントシステム」と呼ばれます。ISMSとは、脅威や脆弱性等から情報資産を保護するため、組織が情報セキュリティを管理する仕組みで、一般的には、国際規格「ISO/IEC 27001」に基づくものを指します（以下、ISMS）。ISMSの評価制度に基づく審査に合格すると「ISMS認証」を取得できます。

学術メディア創成センターは、IT化の進展に伴い急増する不正アクセスやウイルスによる被害、情報漏えいなどの脅威に対する情報セキュリティを確保するため、平成29年度、



図3. ISMS認証（登録番号IC17J0451）

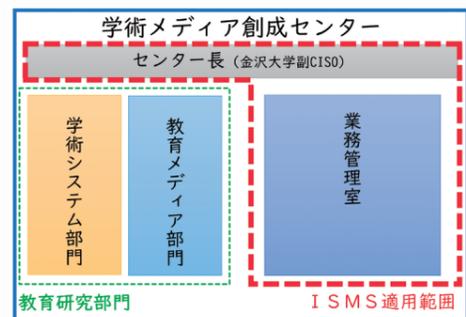


図4. ISMSの適用範囲

ISMS認証を取得しました（図3）。本センターのISMSは、前身の旧総合メディア基盤センターから引き継いだ学内ICTインフラ整備をけん引する機能を「業務管理室」とし、ISMSの適用範囲としています（図4）。ISMSを円滑に遂行するため、本センターではセンター長をトップに、監査委員会、情報セキュリティ委員会、情報セキュリティ管理責任者やISMS事務局を組織しています（図5）。そして、情報セキュリティ委員会を毎月開催し、この委員会でISMS運用に必要な審議や報告を実施しています。

なお2022年10月にISMSの規格改訂が発表され、「ISO/IEC27001:2022」が最新版です。学

術メディア創成センターのISMSも規格改訂への対応が必要で、2024年12月までに新規格でISMS認証を取得する予定です。（文責：大野浩之、森祥寛、富田洋）

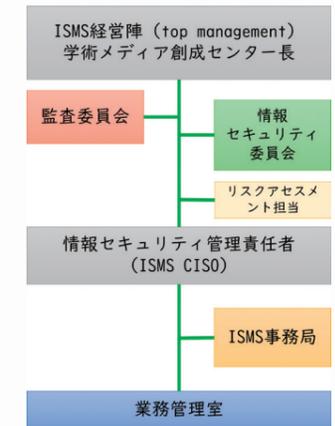


図5. ISMS推進体制

情報推進課の担当業務について

情報推進課

情報部情報推進課は、学術メディア創成センターと連携し、センターの事務手続き等を担当しています。

また、全学組織である情報戦略本部会議の事務も担当しています。

情報戦略本部会議では、令和4年度に「金沢大学におけるサイバーセキュリティ対策等基本計画」（実施期間：令和4年度から令和6年度）を策定しました（表1）。

この基本計画は、これまで取り組んできた大学全体におけるサイバーセキュリティ対策の更なる向上を目的として、学術メディア創成センターで実施している対策に加えて、全学での実施が必要な対策を取りまとめたものです。

情報部情報推進課では、学術メディア創成センターがより安全かつ便利な学内向け各種サービスが提供できるように、業務に取り組んでいます。（文責：櫻井淳）

表1. 金沢大学サイバーセキュリティ対策基本計画工程表

年度	サイバーセキュリティ対策基本計画		
	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2022年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2023年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2024年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2025年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2026年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2027年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2028年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2029年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課
2030年度	情報推進課	情報推進課	情報推進課